

平成14年度文部科学省「21世紀COEプログラム」研究拠点形成費補助金

(京都大学 機関番号14301 整理番号D-2)

(拠点番号 D10)

# 心の働きの総合的研究教育拠点

Center of Excellence for Psychological Studies

平成17年度活動報告書

2006年3月

京都大学心理学連合

Kyoto University Psychology Union



## 研究拠点の名称

心の働きの総合的研究教育拠点

Center of Excellence for Psychological Studies

(京都大学 機関番号 1 4 3 0 1 整理番号 D-2)

(拠点番号 D-10)

## 研究拠点形成費

平成 14 年度 182,000 千円

平成 15 年度 135,000 千円

平成 16 年度 108,300 千円

平成 17 年度 108,900 千円

## 学内関連部局

文学研究科 (行動文化学専攻 心理学専修)

教育学研究科 (教育科学専攻 教育認知心理学講座、教育方法学講座／  
臨床教育学専攻 心理臨床学講座、臨床教育学講座)

人間・環境学研究科 (共生人間学専攻 社会行動論講座、認知科学講座、  
行動制御学講座)

\*高等教育教授システム開発センター (高等教育教授システム研究開発部門)

\*生物科学研究科 (霊長類学専攻 思考言語分野)

注) \* は協力部局である

## 研究組織

研究課題 A チーム 「イメージと表象の性質と機能」

研究課題 B チーム 「身体化される心」

研究課題 C チーム 「文化・社会的環境との相互作用」

研究課題 D チーム 「進化と生涯発達」

構成メンバー（\*は研究協力者、それ以外は事業推進担当者）

氏名	専攻	専門	チーム
藤田 和生	文学研究科（行動文化学専攻）教授	比較認知科学	D, A, 拠点リーダー
苧阪 直行	文学研究科（行動文化学専攻）教授	知覚心理学	A(チームリーダー)
櫻井 芳雄	文学研究科（行動文化学専攻）教授	認知神経科学	A
楠見 孝	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	認知心理学	A, B
齊藤 智	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	認知心理学	A(チームサブリーダー)
*岡田 康伸	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	心理臨床学	A
*皆藤 章	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	臨床教育学	A
河合 俊雄	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	心理臨床学	A, B
*石原 宏	教育学研究科（臨床教育学専攻）助手	心理臨床学	A
*藤原 勝紀	教育学研究科（臨床教育実践研究センター）教授	臨床心理実践学	A
*大山 泰宏	高等教育教授システム開発センター助教授	臨床教育学	A(チームサブリーダー)
船橋 新太郎	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	認知神経科学	A, B
*山本 洋紀	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）助手	視覚心理学	A
*久代 恵介	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）助手	認知神経科学	A
齋木 潤	情報学研究科（知能情報学専攻）助教授	認知科学	A
伊藤 良子	教育学研究科（臨床教育学専攻）教授	臨床心理実践学	B(チームリーダー)
蘆田 宏	文学研究科（行動文化学専攻）助教授	認知心理学	B(チームサブリーダー)
吉川 左紀子	教育学研究科（教育科学専攻）教授	認知心理学	C(チームサブリーダー), B
*角野 善宏	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	臨床心理実践学	B
*和田 竜太	教育学研究科（附属臨床教育実践研究センター） 特任助手	臨床心理実践学	B
松村 道一	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	認知神経科学	B(チームサブリーダー)
内藤 栄一	総合人間学部（共生人間学専攻）助手	神経科学	B
杉万 俊夫	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）教授	社会心理学	C(チームリーダー)
桑原 知子	教育学研究科（臨床教育学専攻）助教授	心理臨床学	C(チームサブリーダー), B
渡部 幹	総合人間学部（共生人間学専攻）助手	社会心理学	C
山田 洋子	教育学研究科（教育科学専攻）教授	生涯発達心理学	D(チームリーダー), C
板倉 昭二	文学研究科（行動文化学専攻）助教授	発達認知科学	D(チームサブリーダー), B
子安 増生	教育学研究科（教育科学専攻）教授	発達心理学	D
*遠藤 利彦	教育学研究科（教育科学専攻）助教授	生涯発達心理学	D
*松沢 哲郎	霊長類研究所（思考言語分野）教授	比較認知科学	D, C
*友永 雅己	霊長類研究所（思考言語分野）助教授	比較認知科学	D, A
*田中 正之	霊長類研究所（思考言語分野）助手	比較認知科学	D(チームサブリーダー), A

## 目次

はじめに .....	1
プロジェクトの内容 .....	3
各研究チームの成果の概要 .....	11
融合研究グループの成果の概要 .....	17
海外拠点形成成果報告 .....	29
シンポジウム、ワークショップ、講演会の開催記録 .....	33
大学院生交流と若手研究者養成プログラム .....	51
修士論文及び博士論文 .....	55
業績 .....	61
添付論文 .....	73
研究課題A 「イメージと表象の性質と機能」	
Ichihara-Takeda, S., & Funahashi, S. (2005). Reward-period activity in primate dorsolateral prefrontal and orbitofrontal neurons is affected by reward schedules. <i>Journal of Cognitive Neuroscience</i> , 18(2), 212-226.	
Kusumi, T. (2006). Human metacognition and the déjà vu phenomenon. In Fujita, K., & Itakura, S. (eds.) <i>Diversity of Cognition: Evolution, Development, Domestication, and Pathology</i> (pp.302-314). Kyoto University Press.	
Osaka, N., & Osaka, M. (2005). Striatal reward areas activated by implicit laughter induced by mimic words in humans: A functional magnetic resonance imaging study. <i>NeuroReport</i> , 16(15), 1621-1624.	
Saiki, J., Koike, T., Takahashi, K., Inoue, T. (2005). Visual search asymmetry with uncertain targets. <i>Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance</i> , 31(6), 1274-1287.	
Sakurai, Y., Takahashi, S., & Inoue, M. (2004). Stimulus duration in working memory is represented by neuronal activity in the monkey prefrontal cortex. <i>European Journal of Neuroscience</i> , 20, 1069-1080.	
山城博幸・山本洋紀・中越明日香・梅田雅宏・田中忠蔵 (印刷中) 点格子刺激を用いた大局的な斜め効果のfMRI 解析. <i>信学技報</i> .	
Yuzawa, M., & Saito, S. (in press). The role of prosody and long-term phonological 3 knowledge in Japanese children's nonword 4 repetition performance. <i>Cognitive Development</i> .	

## 研究課題B 「身体化される心」

- Ashida, H., Kitaoka, A., & Sakurai, K. (2005) A new variant of the Ouchi illusion reveals Fourier-component-based processing. *Perception*, 34, 381-390.
- Ehrsson, H.H., Kito, T., Sadato, N., Passingham, R.E., & Naito, E. (2005) Neural substrate of body size: Illusory feeling of shrinking of the waist. *PLoS Biology*, 3(12), e412.
- 伊藤良子 (2005). 遺伝医療と心理臨床. 玉井真理子(編) **遺伝相談と心理臨床** (pp.13-28). 金剛出版.

## 研究課題C 「文化・社会的環境との相互作用」

- Sugiman, T. (印刷中) Theory in the Context of Collaborative Inquiry. *Theory and Psychology*, 16(3).
- 渡部幹・仲間大輔 (印刷中) 制度の変容と共有された期待—ガバナンスへの実験社会心理学的アプローチ. 河野勝(編) **制度からガバナンスへ—社会科学における知の交差** (pp.93-120). 東京大学出版会.
- 吉川左紀子 (2005) 顔・表情の認知研究：最近の進展. *科学*, 75(11), 1268-1272.

## 研究課題D 「進化と生涯発達」

- 遠藤 利彦 (2005) 感情に潜む知られざる機能とは? *科学*, 75(6), 700-706.
- Fujita, K., & Giersch, A. (2005). What perceptual rules do capuchin monkeys (*Cebus apella*) follow in completing partly occluded figures? *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes*, 31(4), 387-398.
- Itakura, S., Ishida, H., Kanda, T., & Ishiguro, H. (2006). To what extent do infants and children find a mind in non-human agents? In Fujita, K., & Itakura, S. (eds.) *Diversity of cognition: Evolution, development, domestication, and pathology* (pp.315-330). Kyoto University Press.
- Mizuno, Y., Takeshita, H., & Matsuzawa, T. (2006). Behavior of infant chimpanzees during the night in the first 4months of life: Smiling and suckling in relation to behavioral state. *Infancy*, 9(2), 215-234.
- 鈴木亜由美・子安増生・安 寧 (2004) 幼児の意図理解と社会的問題解決能力の発達：「心の理論」との関連から. *発達心理学研究*, 15(3), 292-301.
- やまだようこ (2006). 非構造化インタビューにおける問う技法—質問と語り直しプロセスのマイクロアナリシス. *質的心理学研究*, 5(5), 194-216.

(なおアンダーラインは、京都大学心理学連合構成員 (COE事業推進担当者及び研究協力者) である。)